



発行所
特定非営利活動法人
全国骨髓バンク
推進連絡協議会
〒160-0005 東京都
新宿区愛住町23-1
Woody21-9階
TEL. (03)3356-8217
FAX. (03)3356-8637
発行責任者:品川 保弘
http://www.marrow.or.jp/
E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

ドナーサポートダイヤルスタート

フリーダイヤル0120-892-106

ドナーリテンション事業の一環として

全国協議会は9月1日、ドナーサポートダイヤルを開設しました。

この目的は、骨髓バンクのドナー(希望者・登録者・候補者・経験者等)に対する的確な情報提供や個別相談を通じて、ドナーの疑問に答え、不安を軽減することにより、骨髓提供の意欲を維持し

高めてもらうことです。

全国協議会の骨髓提供経験のある理事が中心となり春先から準備を進めてまいりました。この事業を開始するにあたり、財団ドナーコーディネーター部坂田部長の協力も得られ、少しでも骨髓移植が理解され、患者に多くの希望が与えられることを強く願って

おります。

受付方法は、事務局設置のフリーダイヤル0120-892-106(バンクにと

うろく)で初期対応を行い、その後相談者の質問内容や性別により、携帯電話でお話を伺います。詳細については、全国協議会事務局まで、お問い合わせ下さい。(大橋)

厚生省・新任臓器対策室長と意見交換

7月末をもって、厚生労働省臓器移植対策室の塚本室長が異動となり、後任に片岡佳和氏が就任しました。8月9日、全国協議会の木村副理事長、三田村事務局長、二見理事、鈴木事務局員が厚生労働

省を訪問し、片岡新室長をはじめとする臓器移植対策室の方々と、顔合わせをかねた話し合いを行いました。

最初に、全国協議会の活動を紹介した後、早速現在最大の懸案事項である、登録拡大における日赤の積極的関与について意見交換が行われました。

臓器移植対策室側からは、「大臣からの日赤社長に対する要請を踏まえ、日赤に対してもう一步踏み込んだ対応を求めているが、骨髓バンク事業における日赤の位置づけなど基本的な部分へのこだわりや、業務量増大への警戒心が強く、思うようには進展して



左から2人目が片岡佳和新室長(8月9日臓器移植対策室)

いない」、などと状況説明がありました。そして、全国的な状況や、この問題に対するボランティアの考え方について質問がありました。

全国協議会からは、登録会の実情状況等現場の苦勞や、日赤との関係がうまくいっていない地域の状況などについて紹介しながら、どうにか国の方から日赤本社を動かして欲しい旨を、要請しました。

話し合いは終始友好的で、かつ率直な意見交換を行うことができ、今後ともお互いに連絡を取り合いながら、ドナー登録拡大に向けて努力していくことを確認し、終了しました。

日赤社長宛要望書のその後

先月もお伝えしました、ド

ナー登録拡大に向けた日赤対応に関する統報です。6月末に公式会議の場で提出しました、日赤社長宛の要望書が組織内で滞留し、社長に届けられていない事実が判明したのと合わせて、加盟団体から発

出していただいた同様の要望書も届いていなかったことが明らかになりました。先日、加盟団体に調査したアンケートからも、半数近くの団体から発出した事実が確認されたにもかかわらずです。

ドナー登録拡大に積極的な取り組みを日赤に要望するライオンズクラブからの要望書には、文書で回答されていたこともあって、普段から登録会などで募集に関わっている私達支援ボランティアの声が届かなかつたことは非常に残念でなりません。

今後、日赤に対しては引き続き積極的な関わりを要望する中で、関係機関との協議の場でも、私達ボランティアの声も届けて行きたいと考えております。今後の動きにも注目していただきたいと思います。

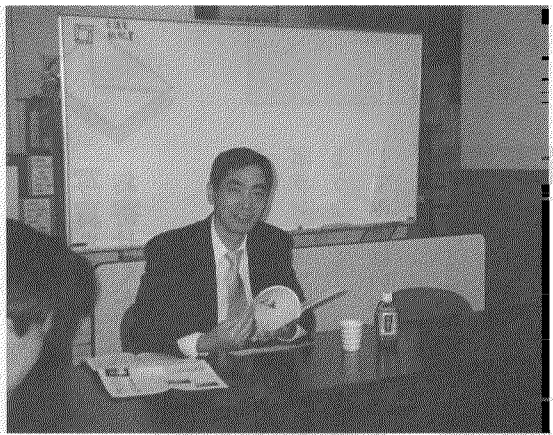
財団常務理事(兼事務局長)交代

骨髓移植推進財団は7月28

日の臨時理事会・評議員会の議決により、7月末をもって大石源三前常務理事(事務局長兼務)が退任し、翌8月1日に後任の堀之内敬氏が就任しました。

この異動を機会に、8月16日、全国協議会の木村副理事長、三田村事務局長、鈴木事務局員が財団を訪問し、堀之内新常務理事と松蘭総務部長、小瀬コーディネーター部長と面談をいたしました。

堀之内新常務理事は九州厚生局長



堀之内敬新常務理事(8月16日骨髓移植推進財団にて)

最新医療情報 その⑦ クロノセラピー

副作用を抑える「クロノセラピー」が注目されてきました。これは、がん細胞と正常細胞の活動時間の差を利用して、抗がん剤を投与する治療法です。化学療法レジメン(治療法)は変えずに投与時間帯のみを夜間に設定することで、正常細胞への影響を少なく、またがん細胞への効果を強くすることを目的に行われます。正常細胞の細胞分裂は通常、昼間が活発で夜は不活発になりますが、がん細胞は夜も昼も関係なく細胞分裂を活発に行っています。この違いを利用して、夜中に抗がん剤を投与するとどうなるか。正常細胞は細胞分裂が不活発ですから、正常細胞へのダメージはかなり少なく済みます。いっぽう、がん細胞の細胞分裂は昼間と変わらず活発ですから、効果も高いというわけです。結果として副作用を抑え、効果を高めることができます。特に午前0時~午前4時の投与が薦められています。この投与方法により、抗がん剤のがんに対する効果が増し、副作用が軽減できると考えられています。

この方法の原書は1997年の「ランセット」に掲載されています。その後もASCO(アメリカ臨床癌学会)などで追試が行われています。これは特殊な技術を必要とする治療法ではなく、抗がん剤の投与時間帯を調整するだけです。化学療法を行うことのできる施設であればどこでも可能な治療法ということになります。

このクロノセラピーが画期的なのは、がん治療を行う際の生活が、大きく変化する可能性が出てくることです。つまり、夜、寝ているあいだに抗がん剤を投与するわけですから、昼間は自由な時間になります。そこで、副作用が少なく元気な状態であれば、普通の生活を送ることができることになり。実際、この治療を受けている患者さんたちの多くは、サラリーマンであれば昼間は会社に出かけて仕事をし、仕事をする必要のない人は好きな趣味に興じていたりしています。そしてまた、夜、病院に戻ってきて、抗がん剤治療を受けるという生活です。ですから、見た目には普通の生活と同じわけです。いずれにしても、抗がん剤というのは諸刃の剣ですから、使い次第といえます。

骨髓バンクの最新情報をお知らせする

骨髓バンクNOW

●8月16日から、100日プロジェクト「迅速コース」の受付を開始

財団は、100日プロジェクトの施策のひとつ、「迅速コース(ドナーごとにコーディネーター開始から骨髓採取まで80日を目標とする)」の受付を8月16日(月)から開始しました。患者さんに早期の移植を検討している主治医から財団移植調整部に「迅速コースの申請書」を提出します。なお迅速コースの対象は申請を受理した後に検査されたドナーからで、現在コーディネーター進行中のドナーは対象外となります。申請書類やお知らせは、財団ホームページからダウンロードすることも可能です。

●7月のドナー登録状況、今年最高の2,500人を記録

7月のドナー登録者数は2,598人、取消者数は826人、実質増加数は1,772人で前年同月の登録者数を33%上回り、登録者実数は19万3,050人となりました。今月も1月から2,000人を超えるドナー登録連続記録を更新しました。

●日本骨髓バンクの現状(2004年7月末現在)

	6月	7月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,441	2,598	193,050	244,623
患者登録者数	185	168	2,613	16,605
骨髓移植例数	75	61	-	5,747

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。

●公共広告機構の新CM「白血病と闘う星野仙一」編が開始

8月から公共広告機構の新キャンペーンが始まります。今回登場するのは、阪神タイガース前監督・星野仙一さんと白血病と12年も闘い続けている谷口明子さんです。CMでは星野さんと谷口さんの出会いと二人の間で交わされた「優勝の約束」というエピソードを軸にお二人のモノローグを展開。谷口さんにとって、星野さんとの「出会い」が白血病と闘う大きなエネルギーになったという事実から、視聴者に自分自身が「出会い」をもたらす存在になる、ドナー登録を呼びかけます。

なお、10月の推進月間で配布されるポスターはこのCMと連動したデザインです。ボランティア団体には追って必要数アンケートが送付されます。



ごんごんごんは募金箱 その4

高田商事(株)本社 (東京都立川市)

高田商事社はJR立川駅、モノレール立川南駅の近くにあり、骨髄バンクのポスターが目印になっています。特定非営利活動法人HLA研究所 淳彦基金を育てる会の事務局でもあり、募金箱の設置に協力することにしました。

ドアを入ると、もえちゃんや夏目雅子さんのポスター、チャンス、募金箱、淳彦基金のポスターがお出迎えます。募金し



てくださる方は当社のお客様がほとんどです。

最近、募金が少なくなりまして、協議会ニュースをご覧になった方にお願ひです。「どうぞ、募金にいらしてください!!」美味しいコーヒーをサービスさせていただきます。(勝木)

リレー紹介 ボランティアの仲間たち

ボランティアアグループあさがお(浴衣の白鳥たち)の巻

今月は趣向を変えて、岐阜の田舎にある小さな病院のボランティアグループを紹介いたします。

始まりは、私が夜勤の時に命のアサガオの種をチラシにつけていたら、ほかの職員が手伝ってくれたことからでした。夜勤明けの翌日、種を配りました。

平成13年5月、郡上市初の骨髄バンク登録会を病院で開催しました。この時は、院長先生はじめ、多数の職員が協力し、市の広報誌・広報無線で呼びかけてもらい、22名の登録があり、これに気を良くし看護師仲間「骨髄バンクボランティアグループあさがお」と名付け活動を開始しました。

現在は病院の仲間10人で活動中。いまでは、病院のほうへ骨髄バンクの問い合わせがくることもあります。

ついでに、私達は、踊り同好会も兼ねています。すぐ近くに有名な「郡上踊り」があり、郡上踊り「白鳥踊り」(しらとりおどり)があります。アップテンポでとても楽しい踊りです。もし郡上踊りに来たら、足を伸ばして白鳥踊りにも来て下さいね。お揃いの浴衣



心からのご寄付をありがとうございました

7月20日～8月22日

㈱タクトコーポレーション	現金	30,000円	
塩谷 圭	現金	1,000円	
切明 蹊	現金	5,000円	
藤倉 済	現金	5,000円	
リサイクルショップ ミント	河合杜素子	現金	13,000円
	関 朝之	現金	2,000円
	鈴木純子	現金	1,340円
	匿名	現金	10,751円
	林 正道	現金	2,351円
	村上美幸	現金	10,000円
	小野寺勇一郎	現金	1,016円
	鈴木則雄	現金	351円
	白相浩二	現金	10,000円
	堀江英二	現金	5,000円
	飯島孝枝	現金	1,000円
●佐藤きち子患者支援基金			
	切明 蹊	現金	5,000円
	海野博子	現金	10,000円
	飯島孝枝	現金	1,000円
姫路地区骨髄バンク推進センター			
		現金	50,000円
●白血病患者支援基金・募金箱			
	シオンドラッグ社店	現金	6,000円
㈱オカダエンタープライズ			
		現金	831,978円
	中谷光子	現金	10,000円
ファミリーマートFC池ノ上駅北口店			
	お客様三名様	現金	23,300円(敬称略)

活動資金の援助をお願いします
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会

各地のりより 各々

各地のたよりを写真を添えてお寄せください。

告知 寄付システムで活動資金獲得

「NPO寄付システム」とは、東海労働金庫の取引顧客98万人に広く呼び掛け、寄付の主旨に賛同頂いたお客様から毎月100円以上・1000円単位(ボーナスからも可能)の指定額を普通預金口座から、無料で自動引落しを行い、あらかじめ選定した39法人に寄付者に代わって寄付する制度です。「骨髄バンクを支援する愛知の会」は、NPO法人ではありませんが、愛知の会の活動に参加している社員の方から東海労働金庫に紹介してもらい、その目的の重要性や、設立以来16年に亘るひたむきな活動内容が評価され、寄付先として選定されました。2004年7月末現在で、寄付者は198人、寄付額も年間308,600円となりました。活動を進める上で、資金不足は悩みの種です。いただいた寄付は骨髄バンク事業の普及啓発活動、患者・患者家族さんへの支援活動に有効に用いられています。

福島 下ナイ登録推進員 活躍中

福島県では今年度、国の緊急雇用対策による予算を使わせて頂き、「ドナー登録推進員」が活動しています。(前半半年で3名、後半半年で3から4名)

奈良 金魚すくい大会でPR

8月21・22日奈良県大和郡山田市で行われた、「全国金魚すくい選手権大会」の会場で、奈良骨髄バンクの会が大和郡山田市子ども育成者連絡協議会のブースの一角を借り、来場者にキティーちゃんうちわとティッシュを配り、骨髄バンクのPRを行いました。

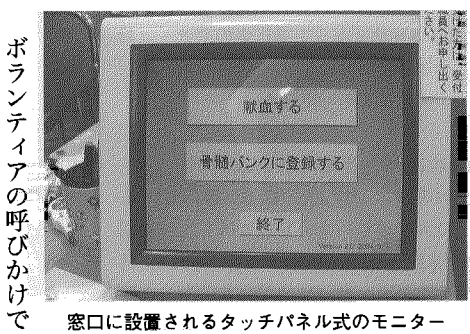
千葉 汐みみがてらの登録説明会

野田市は醤油の町として有名な地です。毎年8月初旬に行われる七夕まつりは、その醤油のライバルとも言えるくらの野田名物のひとつです。今年は8月7、8日に開催されました。

東海以外はいくつかの労働金庫でも、同様の寄付システム

(吉田)

車呼のメンバーもうちわでPR

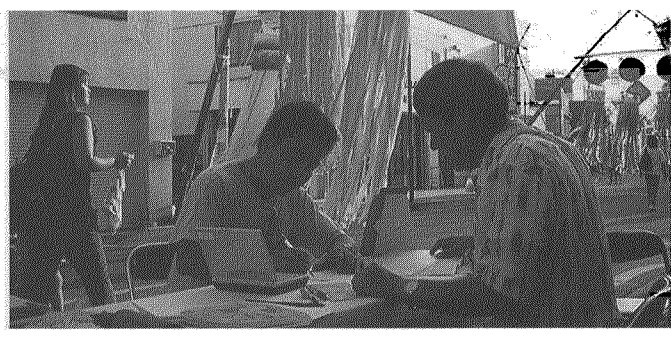


窓口に設置されるタッチパネル式のモニター

血液センターに来た人は、まずタッチパネル式の画面に向かい、最初に「献血する」かを選択します。「献血」を選択すれば献血の問診が続き、「ドナー登録」を選択すると、説明ビデオが流れるという仕組みになっています。

ボランティアの呼びかけで登録受付にいらした方は、既にビデオも見て、詳しい説明も聞いていますので、北海道協会と血液センターとの取り決めで作成された証明書を提出すれば、窓口ではビデオ説明なしで、すぐ登録ができていくようになります。

(加藤)



そこで今回はDVDプレイヤーを持ち込み、ドナー登録説明コーナーを設けてみました。その結果、登録意志のある3名の方に、後日登録できる証明書を発行するに至りました。夕涼みがてら、ふらりと立ち寄った方々にも説明画面が目に入るよう、暗闇になればなるほど効果抜群でした。

(山本)